

平成26年度 租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会

次 第

1 開 会

2 開 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会会長
(東松島市教育委員会教育長)

3 発表者紹介

4 実 践 発 表 石巻市立広瀬小学校 教諭 本宮 千佳
石巻市立中津山第一小学校 教諭 三浦 あや
講師 佐藤 圭恵
石巻市立蛇田中学校 教諭 手代 勝巳

5 質 疑

6 閉 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会副会長
(石 巻 税 務 署 長)

7 閉 会

実 践 発 表 資 料

石巻市立広渕小学校

教 諭 本 宮 千 佳 1

石巻市立中津山第一小学校

教 諭 三 浦 あ や 10

講 師 佐 藤 圭 恵

石巻市立蛇田中学校

教 諭 手 代 勝 巳 17

平成26年度

租税教室実践発表資料



石巻市立広瀬小学校

教諭 本宮 千佳

1 はじめに

税金とは、国の財政を賄う収入の最も主要なものであり、私たちが健康で心豊かに生活を送るために大切な役割を果たすお金である。日本国憲法には、「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う。」と明記されている。具体的には、教育や社会福祉、道路や公園の整備、警察や消防など、住みよい町をつくる国や地方公共団体の財源となる。しかし、大人でもどれだけの人が税金の種類や役割を認識し、納税しているのかは疑問である。

そこで本題材では、「もし、税金が無くなればどうなるか」ということについて、自分たちの日常生活に置き換えて考えることにより、納税の大切さ、必要性を実感させていく。将来の日本を担っていく子どもたちに、税やその使い道について関心をもたせ、政治や国の将来について考えていけるような基礎を今回の税の学習を通して育んでいきたいと考えた。

2 児童の実態

本学級は、6年生(男子12名、女子13名)25名である。事前に税に関するアンケートを行った。結果は以下のとおりである。

1 「〇〇税」のような税金の種類を、知っているだけ書きましょう。

- ・消費税 25名
- ・印税 2名
- ・納税 3名
- ・脱税 3名
- ・増税 2名
- ・無税 2名

2 税金についてどんなイメージを持っていますか。

- ・国をよくする 1名
- ・国を困る 2名
- ・国民から取る 5名
- ・困る 1名
- ・国のお金 6名
- ・お金がかかる 1名
- ・高い 3名
- ・変動する 1名
- ・いらぬ 1名
- ・良いイメージではない 1名
- ・無答 3名

3 消費税は、現在何%か知っていますか。

- ・知っている 24名
- ・知らない 1名
- 8% 23名
- 10% 1名

4 消費税を上げるべきか下げるべきか、それとも今のままでよい。

- ・上げるべき 0名
- ・下げるべき 18名
- 【理由】
- ・払うのが大変 . . . 6名
- ・安いほうが良い . . . 4名
- ・高い . . . 3名
- ・物価が高くなる . . . 2名
- ・計算しづらい . . . 1名
- ・親に買ってもらえなくなった . . . 1名

・今のままでよい 7名 【理由】

- ・国をよくするから・・・1名
- ・将来のためだから・・・1名
- ・高くなると大変・・・2名
- ・上がったたり下がったりは困る・・・2名
- ・国民の不満が増える・・・1名

5 税金はどんなことに使われていると思いますか。

- | | |
|------------------|----------------|
| ・国のため・・・7名 | ・天皇のため・・・3名 |
| ・年金・・・3名 | ・国の建物を建てる・・・3名 |
| ・公務員の給料・・・2名 | ・老人のため・・・2名 |
| ・国の借金返済・・・2名 | ・教科書・・・1名 |
| ・困っている地域の支援・・・1名 | ・復興支援・・・1名 |
| ・輸出，輸入に使う・・・1名 | ・パトカーなど・・・1名 |
| ・貧しい国の支援・・・1名 | ・良いことに使う・・・1名 |

6 税金についてどんなことを知りたいですか。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ・消費税はなぜ上がったか・・・7名 | ・税金はなぜ必要か・・・6名 |
| ・税金の使い道・・・5名 | ・税金の種類・・・5名 |
| ・なぜ税金を払わなくてはいけないのか・・・4名 | |
| ・税金のしくみ・・・2名 | |
| ・本当に国のために使われているのか・・・1名 | |

児童にとって一番身近な税は「消費税」であり、今年の4月から8%に上がったことがニュースなどで取り上げられていることから、消費税については全員が知っている。しかし、その他の税の種類についてはほとんど理解していないようである。また、税金は国のためや良いことに使われているという意識はあるが、税金が増えることについてはよく思っていない。国から取られているという意識が強いため、税金についてあまり良い印象を持っていないようである。具体的にどのようなことに使われているかを理解している児童は少なく、税金についてよく分かっていない子がほとんどであると思われる。

3 指導にあたって

指導にあたっては、次の3点について留意していく。

- ① 社会科の歴史や政治の学習の中で「税金」に関わる単元を意識して取り上げ、税金に触れさせながら学習に取り組ませていく。
- ② 税務署からゲストティーチャーを招いて租税教室を実施することで税に関する専門的な知識を学び、税金についての理解をより深めていく。
- ③ 税金のことを学習することで、今後自分たちはどのようにしていかななくてはならないかを考えさせ、将来、政治や国について考えることの基礎を養っていく。

4 指導計画（2時間扱い）

時間	学習活動	教師の支援
時間外	「税に関するアンケート」 ・アンケートの内容の説明を聞き，記述する。	・業前活動で記述を行う。
1	「租税教室」 ・税金とはなんだろう？ ・もし税金がなかったら？	※石巻税務署に依頼 ・DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を活用する。 ・1億円のレプリカを子どもたちに実際に持たせてみる。
2	「なぜ税金は高くなるのだろうか？」	※国税庁「税の学習コーナー」を活用する。 (http://www.nta.go.jp) ・国の借金について ・少子，高齢化について

5 社会科との関連

（1）『日本の歴史』においておさえさせた語句や内容

○天皇中心の国づくり「大化の改新と天皇の力の広がり」

- ・班田収授の法＝戸籍と計帳を作成し，土地を人民に貸し与え，それをもとに課税した
- ・「租庸調」＝税や労役を課す制度を改革し，人々に「租庸調」の税を納めさせた。
- ・平城京のにぎわいを支えるため，地方の人々が重い税を納めさせられた。

○武士の世の中「人々のくらしと身分」

- ・秀吉の太閤検地＝どの土地をどの農民がたがやし税を納めるかを検地帳に記した。
- ・「年貢を納める」ことに反抗し，百姓一揆が起きた。
- ・百姓は五人組というまとまりをつくり，「収穫の半分にもなる重い年貢」を納めさせられた。
- ・明治政府の諸政策「地租改正」＝土地の価格の3%を現金で納める。

（2）『わたしたちの生活と政治』においておさえさせた語句や内容

○わたしたちの願いを実現する政治

- ・「税金の働きを調べる」
- ・国民の義務「納税の義務」

6 実践内容

【第1次 税とはなんだろう？】7月2日（水）実践

（1）目標

税の種類や意味、使われ方などを知り，税に関する関心を高める。

（2）学習過程

学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	主な支援
1 税金の種類について知る。 ○「知っている税の種類を発表しましょう。」 ・「消費税」「増税」「印税」「脱税」 ○税の種類について話を聞く。 ・50種類もあるの。 ・聞いたことがないものばかりだ。 2 納税の義務と税金の使い道について知る。 ○「どうして税金を支払うのでしょうか。」 ○税金はどんなことに使われているのでしょうか。 3 DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を見る。 ○「もし税金がなかったらどうなるでしょうか。」 ・消防車や救急車が来なくなる。 ・道路が作られない。 ・どんなことにも高いお金がかかる。 4 税金についてまとめる。 ○税金が私たちの生活を支えているのですね。 5 1億円のレプリカを持ってみる。 ・重い。 ・こんなに大きいのか？ ・すごい。	○子どもたちから出なかった税金についてもどんな税なのかの説明を加え，紹介する。 ○各税金がどこに納められるか，国税・地方税にわけて説明する。 ○掲示物を活用して，身近なことに税金が使われていることをわかりやすく説明する。  ○DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を再生する。  ○税金の必要性を，理解させる。 

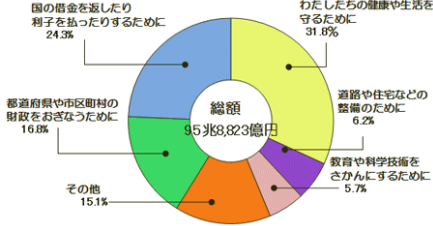
【第2次 なぜ税金は高くなるのだろう？】 7月7日（月）実践

（1）目標

- ・現在の日本の状態を知り、税金が高くなる理由を理解することにより、税金の必要性を意識する。

（2）学習過程

学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	主な支援
1 税金の使われ方について振り返る。 ○「税金はどのようなことに使われているか思い出してみましょう。」 ・「消費税」「たばこ税」「酒税」「固定資産税」「自動車税」など 2 なぜ税金が高くなるのか考える。 ○「どうして税金が高くなるのでしょうか。」 ・国でいろいろなものを作っているから。 ・高齢者が多くなったから。 ・国がたくさんお金を使っているから。 3 少子・高齢化問題について知る。 ○「高齢者一人あたりを何人で支えていくかのグラフ」をみましょう。 4 国の借金について考える。 ○国の予算のグラフを見て、気がついたことを話す。 ・日本の収入は借金で予算が立ててある。	○前時の内容を思い出させるようにする。 ○アンケートで、税について一番知りたいことが「なぜ税金が高いのか」だったことを伝え、関心を持たせる。 ○高齢者一人を4人で支えている今よりも、1人で支えることになる40年後のほうが、税金を多く収めることになることに気付かせる。 2000年 (1:3.6) 2050年 (1:1.2) ○国税庁の資料を活用し、公債金について取り上げ、国の収入の半分近くが借金で賄われていることに気付かせる。 総額 95兆8,823億円 税金など 52.1% 公債金 43.0% その他 4.8%

○国の支出のグラフを見て、気がついたことを話す。 ・教育、道路などわたしたちのために使っている。 ・借金返済や借金の利子にも使っている。 ○国の借金の金額について知る。 ・そんなにあるの？ ・そんなに払えないよ。 ・国が悪い。 5 これからの日本について考える。 ○これからわたしたちはどうしていったらよいでしょうか。 ・税金を高くしていくほうが良い。 ・税金をちゃんと納める。 ・今のままでは大変なことになる。 ・無駄遣いをしない。 ・子どもを増やす。 6 税についての学習を振り返り、感想を書く。	○国税庁の資料を活用し、国の支出の4分の1が借金返済や借金の利子に当てられていることを気付かせる。  ○国の借金は1,000兆円を超えた国民一人あたり 約788万7000円（2014年4月1日時点） 全部を税金で返済すると16年かかることを伝える。 ○税金の必要性を感じさせる。 ○急に税金を増やすことは、私たちの生活を苦しくしていくので、徐々に税金を上げていくことが必要であることを伝える。
--	--

7 成果と課題（成果○、課題●）

- 税金に対して悪いイメージを持っていた子どもたちが、税金を高くすることは必要だと考えられるようになったことは大きな変化であった。
- 「税金は自分たちにはあまり関係ない」と思っていたようだが、身近なことから税について説明していただき、とても分かりやすかったようだ。
- 社会科の時数では、なかなか深くまで税について学習することができない状況であるので、年度当初から学習計画をしっかり立てていかななくてはならない。

8 実践を振り返って

今回、租税の学習を行い、あまりにも子どもたちが税に対して無知なことに驚いた。同時に租税教育の必要性を強く感じた。現在、大人でもなかなか税金の仕組みをしっかりと理解していることは少ない。社会科で税については少し触れるが、今回のように詳しく説

明してもらうことはなかなかない。小学校のうちから、少しずつ税金について理解させていくことで、将来大人になった時に納税がなぜ必要なのかを意識して、税金を納めることができるようになる。私自身も、大変良い勉強になった。このような学習の機会をいただき、税務署の方々に感謝している。

【児童の感想】

税のことが全然分からなかったのではずかしかったが、授業をして他の人に聞かれても答えられるようになった。たばこ税や酒税は税金が高いので、親はぜい沢しているのだと思った。

Y・M

税の種類が50種類もあると聞いてびっくりした。税が日本になかったら日本はお金がなくなり、大変なことが分かった。

O・T

私は税金はない方がいいと思っていたけれど、授業を聞いて税は必要だと感じた。税務署の竹田さんに税の種類を教えていただいたので、とても勉強になった。

K・N

小学校の6年間で一人83万円もかかると思わなかった。そして、税金がなくなると世界の環境がこわれてしまうことにびっくりした。

N・M

税金なんて負担でしかないと思っていたが、実は世の中を支えていると知ってびっくりした。税金も悪くないと思った。

N・R

国、都道府県、市町村で別々に税を分けているなんて分からなかったので、とても勉強になった。アニメのDVDもとても分かりやすかった。

Y・R

税金は悪いイメージだったけど良いものだと分かった。税金を何に使うか、なんで税金が必要なのか等、知りたかったことが分かって良かった。税金の話には興味があったから楽しく話が聞けた。

M・N

今まで税金がつくと高くなるからなければ良いと思っていたが、あってよかったと思った。税は私たちの暮らしに必要なものだと感じた。

O・S

消費税をなんで払わなくてはいけないんだろうと思っていたけれど、とても役立っていることが分かったので、これからは気持ちよく払える気がした。

S・R

税なんていらないと思っていたけれど、いろいろ教えてもらって税は国のためにとっても大切なんだと思った。前よりも税のことをもっと知りたいと感じたので、また教えてほしい。

T・R

今まで、消費税しか知らなかったが、市町村民税や酒税、たばこ税などの種類があると分かって良かった。税金は日本のためになっているのだと聞き、安心した。

S・S

税は大切なんだと思った。種類が50種類あることにもびっくりした。お父さんやおじいちゃんがお酒やタバコをたくさん飲むので、もっと税をアップさせてほしい。

S・S

租税教育の授業の工夫 ～4年生「生活と税の関わり」の学習を通して～

石巻市立中津山第一小学校

教諭 三浦 あや

講師 佐藤 圭恵

1 はじめに

小学校では、第6学年の社会科「私たちの生活を支える税」の中で税金の学習をする。そこで、本実践を行うにあたり、第4学年の社会科「自分達の暮らしを守る人々や働きを知ろう」の単元を横断的、総合的に扱い、総合的な学習の時間の学習テーマを「租税」として学習させていくこととした。

総合的な学習の時間の中で他教科と関連させながら「租税教育」を行い、税金が広く自分たちの身近に存在することを学ばせながら、税金の大切さに気付かせたいと考えた。

2 指導計画（42時間扱い）

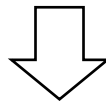
	学習の流れ
気付く	1 「自分達の暮らしを守る人々や働きを知ろう」(社会科) ◎消防署、警察署の見学（6月） ・消防車やパトカーはすごくお金がかかるんだ。 ・消防車やパトカーは<u>だれがお金を出して買っているのかな。</u> ↓ 消防署や警察署にかかるお金が「税金」というものだと知る
調べる	2 税金について知ろう（総合的な学習の時間） ① 税金ってどんなもの？ ②学校の中にある税金を探そう。 ② 町の中にある税金を探そう。 ④税金の金額は、どのように決めるのか考えよう。 ・税金は、みんなが使うものに使われているのだね。 ・自分たちの周りにもいっぱい税金で買われているものがあることにびっくりした。 ・税金の種類って、<u>どんなものがあるの？</u> ・税金が<u>何に使われているのかも</u>っと詳しく知りたいな。

考える

3 税務署の方に税金について教えてもらおう（総合的な学習の時間）

- ◎税金は、どうしてあるのかな。 ◎身の回りの税金を知ろう。
- ◎税金の集め方について知ろう。 ◎税金がなくなると、どうなるの？

- ・税金がなくなると、町が荒れ果ててしまっぴっくりした。
- ・税金は、ただ集めているのではなくて、みんなで助け合うためのお金だと知って安心した。
- ・税金を自分もきちんと払って、いい町を作っていきたいな。



4 税金を使って、よりよい町を作るために、どんな物が必要かを考えよう
（総合的な学習の時間）

- ◎町を作るために、どんな物が必要かを考えて「自分の理想の町づくり」をする。

- ・幼稚園から大学まで近くのあるといいな。みんなですぐに遊ぶことができるから。
- ・みんなが住みやすい町を作るって大変だな。
- ・消防署や警察に関わるお金は、税金を使ったほうがいいな。みんなの安全を守るから大切だもん。



伝える

5 学習したことを伝えよう。（総合的な学習の時間）

- ◎学習発表会で税金について分かったことを劇にして伝えよう。

- ・勉強したことをもっと家族や地域の人に伝えたいな。
- ・劇にすれば、分かりやすく伝えられると思う！
- ・税金の大切さを伝えるには、どんな内容にしたらいいかな。
- ・税金がない世界にタイムマシンで移動するお話にするとおもしろいんじゃないかな。
- ・みんなで、税金がない世界を考えて、劇にしよう。

3 実践内容

(1) 単元名：「税金の集め方について知ろう」 (6月4日(水) 1時間実施)

本時の目標：税金の金額がどのように決められているのか、ゲームを通して理解できるようにする。

	主な学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	◇主な支援
導入	1 税金の金額がどのように決められているのかを聞く。 ○税金として払うお金は、どのように決められているのでしょうか。 ・みんな同じお金を払うようにしている。 ・みんな決まった額を払っている。 ・お金持ちは、いっぱい払う。	◇前時に児童は、消費税が誰でも同じ金額であることを学習した。その際に児童から、「給料が少ない人は、払うのが大変ではないか。」という疑問が出た。そこで、本時は、所得税がどのように決められているのかを考えさせて、税金は全員同じ金額で払うだけではないことを知らせる。
展開	2 実際に税金の金額を考えてみよう。 ○税金の金額を考えてみましょう。 ◎税金を5人で1ヶ月100万円集めることになりました。それぞれ、いくら払えばいいのでしょうか。ただし、一人一人1ヶ月の給料は、下のように違います。 Aさん・・・80万円 Bさん・・・70万円 Cさん・・・60万円 Dさん・・・50万円 Eさん・・・40万円 (話し合いの仕方) ① A～Eをそれぞれ班の中で誰にするか決める。 ② 1ヶ月で100万円集めるために、それぞれいくら払うか話し合う。 ③ 表にまとめ、金額を書き入れる。 ・みんなが同じ金額だと公平なんじゃないかな。 ・みんな同じ額だと、給料が違うから残りに差が出てしまうよ。どうしたらいいかな。 ・残りの金額が同じになるとバランスがいいよ。 ・Eさんは給料が少ないから0円でいいじゃないか。 3 考えを発表し、話し合う。 ○それぞれが考えた一人一人の金額を発表してください。 ・全員、同じ額を払わないと不平等だから、全員20万円。 ・一番、多い給料の人は30万円、一番少ない給料の人は10万円、他	◇理由も一緒に考えさせながら、話し合わせる。 ◇表を黒板に提示し、各グループの違いをすぐに比較・検討できるようにする。 ◇悩んでいるグループがいたら、同じ金額ずつ分けるとどうなるかを考えさせる。 ◇考えた理由を掲示し、自分たちのグループの違うところ、比較しや

	の3人は20万円にする。 ・多い人から順番に、40万円、30万円、20万円、10万円、5万円。そうすれば、税金から残ったお金がみんな同じになる。 ・Eさんは、かわいそうだから0円。それ以外の人で100万円を払う。 ○それぞれの意見を比べて、気付いたこと、感じたことはなんですか。 ・全員、同じ額を払うことが公平ではないように思う。 ・給料が少ない人にとっては、苦しい。 ・公平に払う・・・てなんだろう。残った額が同じになることが一番公平なんじゃないかな。 ・みんなが公平になるように、同じ額のものもあるけど、違う金額のものもあるんだね。	すくする。
まとめ	 4 まとめをする。 ○税金は、それぞれの給料によって払う額が決められているものもある。	◇「公平」とは、全員が同じ額を払うことだけではないことを知らせる。

(2) 単元名「税務署の方に税金について教えてもらおう」(6月25日(水)1時間実施)

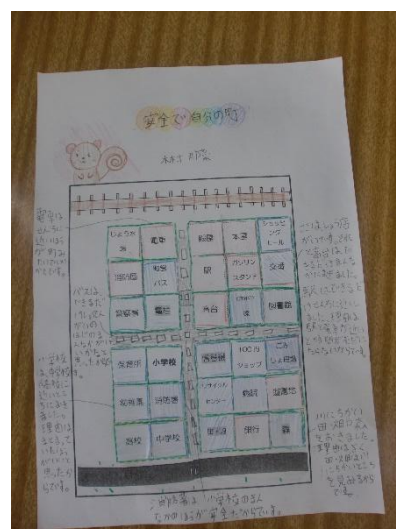
本時の目標：租税教室を通して、税金に関する理解を深める。

主な学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	◇税務署の方の主な説明
1 税金の種類について知る ○税金には、どんな種類があるでしょうか。 ・消費税 ・所得税 ・たくさんある！ ・お酒を飲むのにも税金ってあるんだね。 ・聞いたことあるけど、どんなものか知らなかったな。 2 税金の集め方について知る。 ○税金がどのように集められるのか、勉強していこう。 ・すぐには、自分たちのところにはこないんだね。 ・税金の使い道を話し合う人がいるのか。 ・きちんと話し合われて、使い方が決められているんだね。 3 税金がなくなるとどうなるのかを知る。 ○税金がなくなると、どんなことが起こるのか勉強しよう。 ・道路がめちゃくちゃだ。 ・町がぼろぼろになってしまうんだね。 ・消防車を呼ぶのに、とってもお金がかかるんだね。 4 1億円の重さを体験してみよう。 ○1億円がどのくらい重いのか体験してみよう。 ・重い！ ・石巻市の税金は、これが何千倍もあるんだ・・・ ・すごいなあ。	◇他にも、「たばこ税」「自動車税」「法人税」「酒税」という税金の種類があるんだよ。  ◇買い物をするときにかかる<u>消費税</u>は<u>税務署</u>に集められ、<u>国のお金</u>へとなる。  ◇DVD教材を用いて、税金がなくなった世の中について学習しよう。 

(3) 単元名「未来の町を作ろう」(9月3日(水) 1時間実施)

本時の目標:税金を使って,どんな町を作りたいのかを考えることを通して,税金の大切さに気付けるようにする。

	主な学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	◇主な支援
導入	1 今までの学習を振り返る。 ○税金は,どんなものに使われていたのですか。 ・みんなが使う, 必要なもの	◇今まで使用したワークシートを振り返りながら想起できるようにする。
展開	2 未来の町作りについて考える。 ○将来の桃生町をどんな町にしたいか考えよう。 (1) どんな町に住みたいかを考える。 ・笑顔がいっぱいの幸せな町 ・安心して楽しい町 ・みんなが元気で楽しい町 ・安全に暮らせて優しい人がいっぱいな町 ・ゴミが少ない, 緑がいっぱいの町 (2) 未来の町を作るために, 必要な建物や物を考える。 ・警察署 ・消防署 ・浄水場 ・横断歩道 ・学校 ・森 ・畑 ・市役所 ・公園 ・電車 ・駅 ・郵便局 ・ごみ処理場 ・公衆電話 ・服屋さん ・遊園地 ・ショッピングモール ・コンビニ (3) 税金で建てる物を20個選ぶ。 ・消防署は, みんなが必要な物だから税金かな。 ・服屋さんは, 使う人が限られているから,税金で建てる必要はないかな。 ・森や田んぼは, 税金を使ってみんなで守ってきたいな。 ・電車や駅は, みんなが使うから税金を使ったほうがいいな。 ・警察署は, 子供が多いところにしよう。そのほうが,安全な町になる。 (4) 税金を使わないけれども, あったらいいなと思う物を10個選んで,町を作ろう。 ・保育園から大学まで, 近くにあったほうがいいな。そのほうがみんなで遊ぶことができる。	◇最初に「笑顔」「安心」「楽しい」など,キーワードとなる言葉を挙げさせて, その後, 一人一人に具体的に考えさせてワークシートに記入させる。 ◇自分が住みたい町を作るためにはどんな建物が必要かを考えさせる。 ◇税金で建てられている建物以外にも欲しい建物や物を考えさせる。イメージが湧かない児童には, 今の桃生町にある建物や物を考えさせる。 ◇自分たちの住みたい町に絶対に必要な物を20個選ばせる。自分だけが必要な物ではなく, 住む人みんなが必要な物かどうかを考えさせながら選ばせる。
まとめ	4 本時の振り返りをする。	



4 児童の感想

- ・「未来の町作り」を考えるときに、みんなが安全で楽しく過ごせる町を作りたいと思った。けれども、町だけじゃなく、森や自然、道路のことについても考えないといけないのが難しかった。自分のことだけでなく、相手の気持ちも考えながら町を作ることも難しくて大変だった。
- ・「未来の町作り」で町を作るのは、思ったよりも大変だった。税金は人が働いたお金だからだれでも住みたいなあと思うような町を作らなければいけないと思った。石巻や他の町を作った人は、すごいなあ、と思った。町を作る人は、授業と違って30個以上だからすごいと思う。
- ・この勉強をする前は、「なんで払わなければいけないのだろう。」と思っていた。けれども、勉強をしてちゃんと自分たちに役立つものに使われているのだと分かって安心した。今は、払ってもらっているけど、大人になったら税金が払える人になりたいと思った。
- ・自分たちの周りの必要なものがほとんど税金だと分かってびっくりした。税金は、みんなで助け合うために必要なお金だと分かったので、大人になって、働いて税金がはらえるようになりたい。そして、もっと自分たちの周りのどんなものに税金が使われているのかを知りたい。
- ・租税教室で1億円を持ったときに、とても重いと思った。そして、石巻市だけでこの何十倍もの1億円の税金が使われているのだと分かってびっくりした。ぼくたちの周りにある必要な建物などは、とてもお金がかかるのだと思った。税金の使われ方について、もっと調べてみたい。

5 成果と今後の指導

【成果】

- ・社会科の消防署、警察署の学習をきっかけに税金への興味をもてるよう、事前に消防署や警察署の方にパトカーや救急車の値段を説明してもらうようお願いをした。説明を聞いた児童は、自然と「そのお金は誰が払っているのか。」という疑問をもち、税金の学習へとつなげることができた。
- ・税務署の方に実際に授業をしてもらったことで、より税金への理解が深まり、大切さについて感じることもできた。また、「学んだことを多くの人に伝えたい」という活動へとつなげることができた。
- ・「未来の町作り」を行ったことで、税金を払うことはもちろん、払った税金が今、町の中でどんなことに使われているのか、税金がきちんと必要なものに使われているのかを調べなければいけないと児童が感じることができた。

【今後の指導】

- ・学んだことをどのように伝えるか話合ったところ、児童から「学習発表会で伝えたい。」という意見が出た。そこで、児童が「税金がなくなったらどんな町になるのか」を考え、それを劇にして学習発表会で伝えていく。

私たちの暮らしと税金
～税の大切さに気づき、これからの日本の財政について考えることができる授業～

石巻市立蛇田中学校
教諭 手代勝巳

1. はじめに

私たちの身の回りには税金によって整備されている施設や行われているサービスがたくさんある。

しかし、生徒の意識の中の『税』のイメージは多くが『消費税』であり、「余計に払わなくてはならないもの」というイメージが大きい。何のために税を支払っているのかが分からず、嫌だなと考えている生徒も少なくない。なぜ税金を支払うのか、税金がなくなったらどうなるのかについて考え、税についてのしくみへの理解を深めさせていきたいと思い、今回の租税教育を計画した。

また、社会科教育の大きな目標として「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」があり、税についての知識を正しく身に付けることも公民的資質の基礎として大切にしたいと考える。

以上のことから、生徒の意識を大きく変えることを目的として授業を展開していきたい。

2. 生徒の実態

今回、租税教育を受けるのは、蛇田中学校3学年5クラス193名である。どのクラスも、授業に前向きに取り組み、社会科に対しても関心が高い。公民の学習は、1学期後半から始まったが、自分たちの身近なことを取り上げた題材が多く、毎時間興味をもって授業を受けることができている。

租税教育に当たって、税に関してのアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

税についてのアンケート（3学年 190名）

問1 税金について、どんなイメージを持っていますか？

無駄なお金。物価が高いが、国民のためにあるもの。〇〇税。難しい。消費税高すぎる。増税。高い。必要なもの。何にどのくらい使っているのかわからない。お金。あまり良いイメージがない。使い道がいまいちわからない。国民によって納められ、様々なことに使われるお金。必要があるのか。国に送るお金。5%から8%に上がったもの。ものの値段にプラスされてあるもの。自分たちの生活を支えるお金。必要な制度。もしもの時のためには必要なもの。

問2 日本にはどのような種類の税金があるか？

消費税（149人） 租税（2人） 所得税（42人） 自動車税（7人） 年金（1人） 関税（19人）
地方交付税（1人） 住民税（3人） たばこ税（35人） 納税（9人） 固定資産税（8人） 入湯税（1人）
相続税（5人） 印税（18人） 土地の税金（3人） 市税（1人） 国税（1人） 法人税（7人）
事業税（1人） 酒税（11人） 老人のための税金（2人）

問3 税金がどのように使われているか、知っていることはありますか？

国のお金。公務員の給料。国のために使われる。年金。道路管理など。無駄なことに使われている。公共事業。学校や病院をつくる。復興支援。教科書。わからない。救急車。議員の人が使っている。国の借金返済。ダム。治安維持

以上のアンケート結果から、税の知識については、自ら買い物の時に支払う「消費税」は知っているが、その他の税の知識は少ない生徒が多いことが分かった。また、税がどのように使われているかわからない生徒もいる一方、税金をなぜ払わなくてはいけないのかを深く考えている生徒もいることも分かった。

3. 指導にあたって

アンケートにより、生徒たちが税に対して「あまり良いイメージをもっていない」ということが分かった。そのような不公平感、不満感をなくすために、我々の身の回りで、どのように税が使われているかを、具体的例を出しながら、生徒の生活の中から考えさせたい。また、税がなくなったらどうなるのかを具体的に考えさせることも必要であると考え。そのため、本単元は、租税教室から税の必要性、種類など理解したうえで、国の財政について考える構成としていきたい。

4. 実践計画

時間	学習内容	おもな学習活動	指導資料
1	税とはなんだろう？	- 税金が生活に必要な理由を理解する。 - 租税教室を通して、税に関する興味を深める。	- 私たちの生活と税（国税庁HPより） - VTR「アナザーワールドへようこそ」
2	税金の行方と国の借金	- 税金の種類と、それぞれの特徴について理解する - 歳入と歳出の内容から、今後の財政のあり方を考える。	- 私たちの暮らしと税 - 借金時計（財部誠一より） - 教科書、資料集

5. 実践のポイント

(1) 一時間目 租税教室 ～税の無い世界はいったいどうなる？～

①本時の指導目標

- ・税金が生活の安定と向上に使われていることを理解する。
- ・租税について興味・関心を持ち、租税の仕組みと働きについて理解する。

②実施日時 平成26年9月24日（水）3校時目

③場所 本校体育館

④対象生徒 第3学年194名

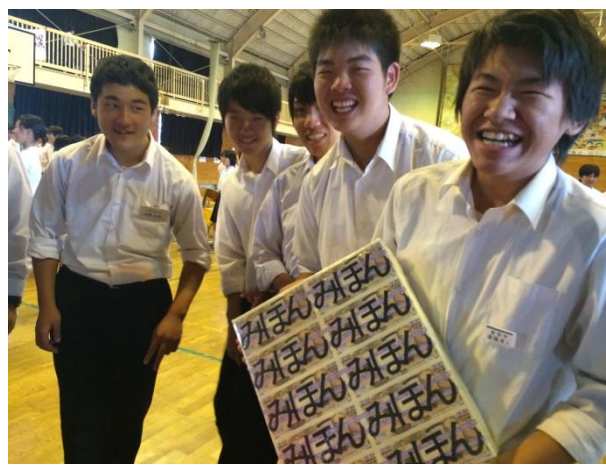
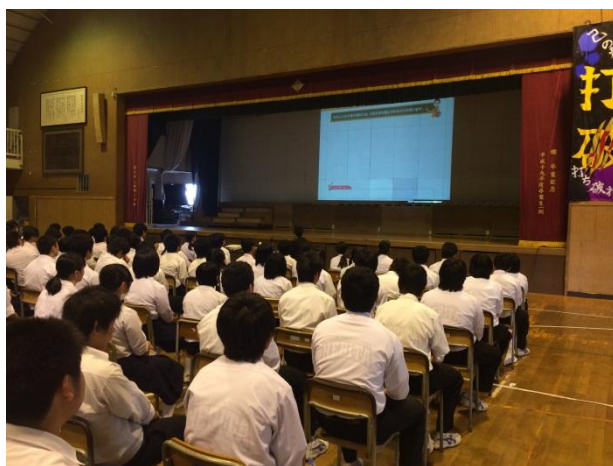
⑤講師 石巻税務署総務課 川田 真澄氏

⑥本時の流れ

- ・私たちと税のかかわりとは？
- ・なぜ、税を納めなくてはならないのか？
- ・VTR「アナザーワールドへようこそ」 税の無い世界はどうなるの？
- ・国の財政の問題とは？
- ・これからの社会と税を考えてみよう。
- ・1億円擬似体験（1億円はどれくらいの重さになるか？）

⑦生徒の感想から

- ・国民の人々が税を払っていることで、自分たちの力で国をよくしているということが分かった。そのためにはよろこんで払おうと思った。
- ・税金がなくなったら大変だと思いました。何に使われているのか分かってよかった。
- ・中学生一人当たり税金が100万円近く出されていることが分かった。その分を無駄にしないためにも、もっと勉強しようと思った。
- ・税を負担するのは大変なことだけど、税を負担しなかった時の自分たちの暮らしはもっと大変なんだなおもった。
- ・税金がなくなると、治安が悪くなってしまいうんだなと映像をみて思いました。1億円も実際に持つことができて、10kgあることを初めて知りました。
- ・今まで税が何に使われているかよくわからなくて、なんでこんなにも高いんだ！と思っていたけれど、税がないと生活が大変だし、救急車や消防車も来なかったりして大変なんだな、と思った。
- ・高いと思っても、しっかりと税金を納めていかないといけないと思った。
- ・税金の大切さを改めて知りました。これから生きていくのに、税金は必ず納税して、それが自分に返ってくるのだと思いました。
- ・今日の授業を受けて、税の必要性和使い道がよく分かった。でも、ヨーロッパのようにどんどん増えていくのかと思うと少し不安になった。
- ・これまでずっと、なぜ、消費税が8%から10%になるのか分からなかった。「普段の暮らしが快適になる分だけ、負担も大きくなる」に納得した。税の見方が少し変わりました。



(2) 二時間目 税金の行方と国の借金

①本時の指導目標

- ・税金の種類と、それぞれの特徴について理解させる。
- ・歳入と歳出の内容を読み取り、日本の借金時計から、今後の財政のあり方を考える。

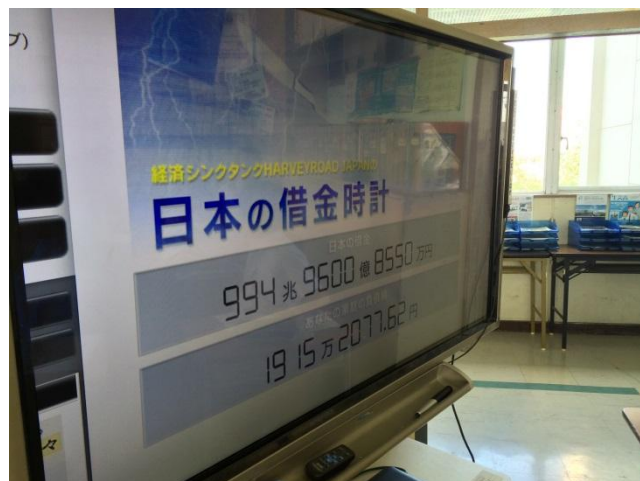
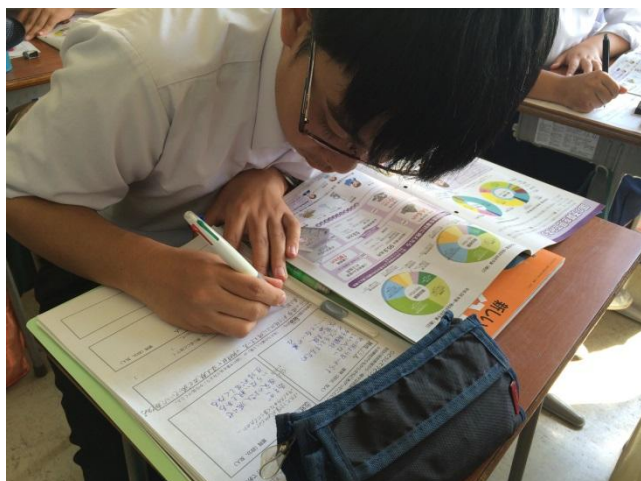
②本時の流れ

- ・消費税が8%に上がったことについて簡単なアンケートを行い、クラス内の様々な意見に触れる。

- ・ さまざまな税の種類について確認させ、それが私たちの生活にどのようにかかわっているかについて考えさせた。
- ・ 歳入と歳出のグラフを読み取り、公債が多いことについて触れて、日本の借金時計を例示し、日本の財政の問題点について考えさせることができた。

③生徒の感想から

- ・ 税金が上がっても、景気が良くなることを期待したい。
- ・ 今まで借金を感じなかったけれど、日本には多くの借金があることを今日とても感じた。豊かだと思っていたけれど…でも、この借金がいつ減っていくのだろうか。一方的に増えているので、減る気がしない。
- ・ このままで大丈夫なのかと不安になりました。これから消費税が10%に増えるかもしれないけれど、正直それが正しいのかはよく分かりません。やっぱり消費税は上げないと仕方がないのかなと思いました。
- ・ 消費税を上げるのは構わないけれど、その前に若い人がちゃんと1つの家庭を持てるように、ちゃんと仕事ができる環境にしないとダメだと思う。それができないから少子高齢化になるのだと思った。
- ・ 国がお金を使いすぎなのが悪いのに、なんでそれを国民が背負わなきゃいけないのか分からない。
- ・ 日本がよく今のシステムで成り立っているなと思いました。なので、5%から8%～10%とあがっても国を存続させるには仕方がないことだと思いました。



6. 実践を終えて（○は成果 ●は課題）

- 租税教室を通して、生徒が税とは何か、納税の大切さをより身近に感じる事ができた。
- なぜ税金を国に納めなくてはいけないのか、という生徒の疑問を解決することができた。
- 財政のあり方を考えるために、借金時計を提示したが、国の借金ということだけに注目してしまった生徒が多かった。
- 今回は消費税に着目したが、生徒から出てきた疑問を使って、授業を展開してもよかったのかと考えた。